

SDGsの日本国内での実施に向けて

国連生物多様性の10年
市民ネットワーク 
Japan Civil Network for the United Nations Decade on Biodiversity

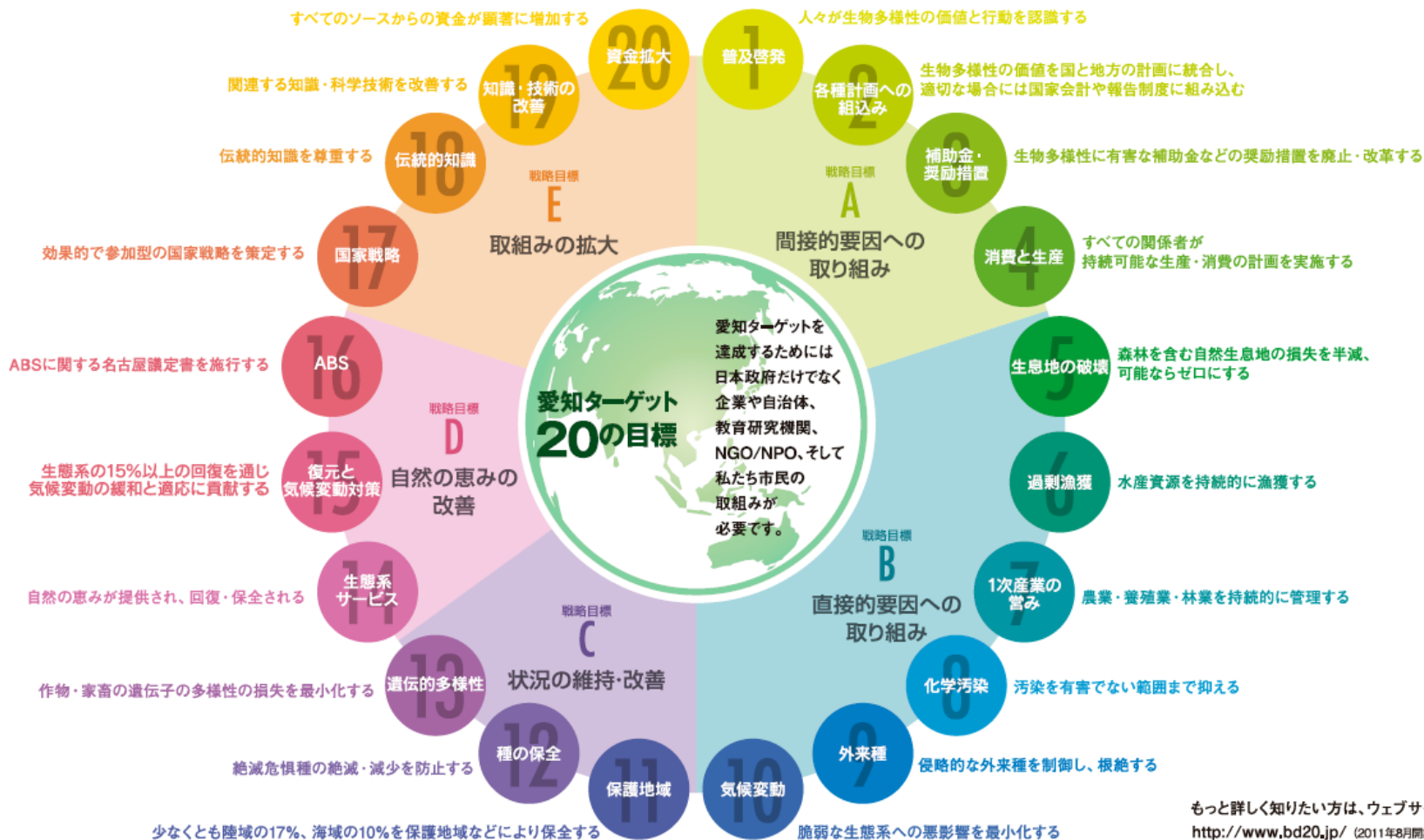
企画運営委員
SDGs／防災と生物多様性グループ
今井麻希子

国連生物多様性の10年 市民ネットワーク

- 生物多様性条約COP10に向けて結成された
市民ネットワーク(CBD市民ネット)の後継組織
- 「国連生物多様性の10年」(2011-2020)
＜日本の市民社会の働きかけがきっかけで
国連採択
- 生物多様性の主流化にむけて

生物多様性条約COP10「愛知ターゲット」

2050年までに自然と共生する社会の創造を目指し、**ながら、2020年までに生物多様性の意味と価値を**
全ての人が理解し、社会の常識となり、生物多様性 の損失を止め、回復力のある生態系を確保する。



もっと詳しく知りたい方は、ウェブサイトへ
<http://www.bd20.jp/> (2011年8月開設予定)

2020年の達成を目指した**包括的**な目標。これをもとに、国家戦略や地域戦略が作られている。





女性メジャーグループの Rio+20 ハイレベル会合での発言

「私たちは健康な環境への権利へのコミット、そして汚染者責任原則を持つことが必要です。女性や貧困層の多くの生活は健康な環境に依存しています。研究によると、損失を受けていないエコシステムは最も貧困な人たち—その多くは女性です—の生存を保障するといわれています。彼らはエコシステムの機能に80%依拠しているのです。私たちが環境を破壊し汚染することは貧しい女性たちの生活を破壊しているということになります。ここ数日、私たちは日本、カザフスタン、ウクライナ、ニジェールの姉妹からの発言を耳にしてきました。私たちの多くは、福島のもの、核汚染による非常に大きな健康へのリスクと原発の受け入れ難いコストについてリオ+20の文書に反映されるべきであると思っています。私たちはまた、文書が採掘(mining)に好意的なものとなっていることに懸念を抱いています。採掘は最も破壊的で汚染をうむセクターです。採掘場が空荷なった後、殆どの外資の企業はそこを離れ政府はその汚れたもの・乱雑(mess)をクリーンアップすることができません。私たちはこの状況を多くの地域で目にしています。例えば中央アジアでは、ウラン鉱山からの放射能汚染が国境を超える地下水の帯水層を何千年にもわたり汚染しようとしているのです。

「周縁化」された課題を分野横断型に国境を越えて発信する力

各メジャーグループをまたぐ活動

Rio+20 本会議場での脱原発デモンストレーション



(2012.6.23 朝日新聞記事にて紹介された写真)

「女性」はどのメジャーグループにも存在する



エネルギーに関する記者会見

分野横断性・団結力・コーディネート力・柔軟性

Gender equality isn't a
women's issue.
It's a human issue.



「ジェンダー平等は女性の問題ではない。人間の問題です」

ダイバーシティ:

女性も、LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランス
ジェンダー)ら性的マイノリティも含む多様な個性を
認め合い・生かし合う社会



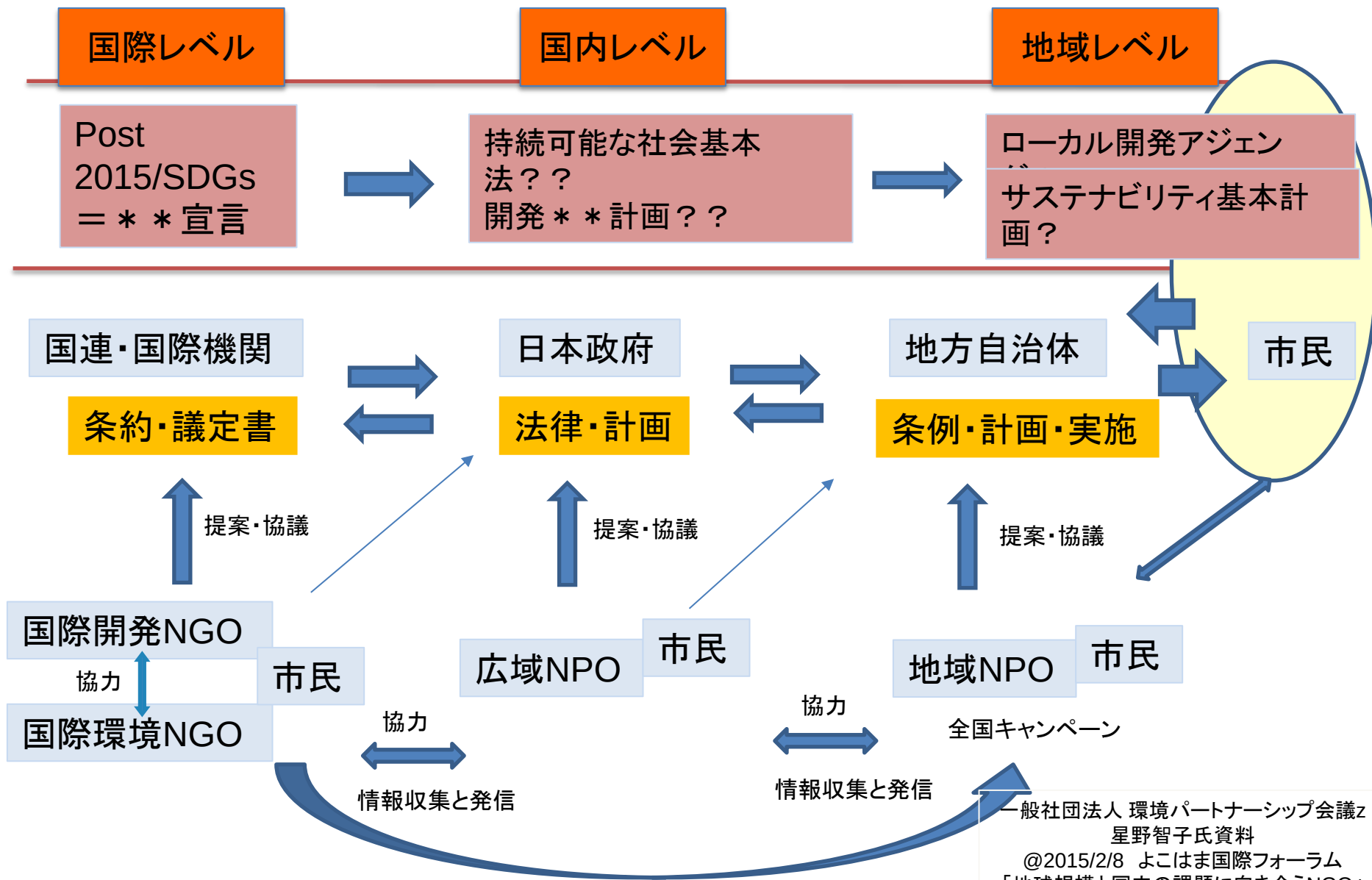
分野横断型のSDGsはジェンダー主流化のチャンス

「2030年に向けた世界の新しい開発目標」 という文脈を活用する



基本理念 「Leave no one behind: 誰も取り残さない」

ポスト2015の国内実施に向けて



国内での開発課題主流化 推進に向けて

リオ＋20 (2012)

- 国内準備委員会
(外務省・環境省)
- 9つのメジャーグループ
- ワークショップの開催
- 国連への意見の提出

SDGs交渉

- 各グループ独自
- Post2015NGO連絡会
- 外務省意見交換会の開催
(MDGsからの流れ)
- 環境省意見交換会

これから...

- 円卓会議の開催
- Action 2015
→Now So What
(新キャンペーン)
- 「地方創生」
- 気候変動COP21
- 伊勢志摩サミット
- 2020年東京オリンピック／パラリンピック
- 仙台防災枠組

SDGsという国際合意をうまく
使って、課題の
主流化・焦点化を

国内での推進にむけて



サステナビリティ円卓会議
(8月6日地球環境パートナーシッププラザ)



Bringing the SDGs to life: real change for real people (lied)
この年老いた女性には薬などの医療的ケアが必要ですが
本当に必要なのは、公平性なのです。
女性であり黒人であるがゆえに人生が不公平にならなくて済むような。

マルチセクター連携の場づくり

- ・ 円卓会議の開催
- ・ 既存ネットワークの活用／コラボ
例) 社会的責任向上のための
NPO／NGOネットワーク
Post2015NGO連絡会
環境自治体会議／イクレイ
ローカルアジェンダ21実施自治体

情報発信

- ・ 「2030(2020)」「地方創生」「ダイバーシティ」「水」など社会的関心の高い
キーワードと関連づけるなどの工夫
- ・ 「ヒューマンタッチな」(共感性ある)
ストーリーを

JCC2015：防災会議に向けたCSOネットワーク

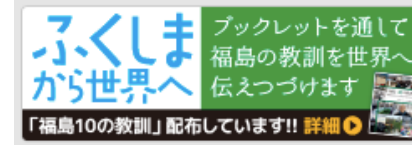


- 分野横断型ネットワーク
- 政策提言（政府）
- メディア対応

セカイと学ぼう。市民のための防災会議へ！



2015防災世界会議
日本CSOネットワーク
Japan CSO Coalition for 2015 WCDRR



「防災」からみる事例

仙台防災会議を振り返って

National / Regional / Global

課題

【グローバル】

今年1年のグローバルな防災
課題の流れの最初の会議と
このプライオリティが弱かった

防災世界会議への度
とMDGsなどにどうつなげ
SDGs ~~UNFCCC~~ にか?

【地域】

地域の声をどれだけ
拾えたか?

福島での企画は地元
メディアにはほぼ無視
(仙台の福島県は別) された

岩手でも何か企画も
やれば地元団体は参加
したはず

会議の成果をどれだけ
地元の活動に返せたか?

個々の団体が発信し
メッセージ (例: 防潮堤と
生態系) をJCC全体の提言に
あき入れられなかった

【対政府、行政】

日本政府が出すメッセージ
とそのプロセスに市民の声を
十分に聞かれなかった

各県のタブーにどの程度
挑戦できたか

JCC 2015のサポートがある
学びがあった
被災地で活動する団体は
力を得た。

これまで接点のなかった
団体と同じ目標をもって
活動できた

「防災」は様々な分野の
団体にとって入りやすいテーマ
切り口として使いやすかった

いろいろなNPOが参加して
議論。今回の経験と今後の
活動にどう活かしていくのか。

地元の団体と国際的な
動きとの橋渡しができた

これからやるべき

ナショナルプロセス
構築とフォロー

仙台防災枠組の
フォローアップ

地域の活動と世界の動き
がつながっている感による
エンパワーメント

マイルストーンや
ターゲット、ゴールなど
メッセージと可視化

仙台防災枠組を
市民社会として読み解く

ポストJCC ネットワーク
を防災も切り口に維持

↑
これに因る
日本政府との対話

面白くないと続かない

防災、世界的課題と
つながる地域の重点課題
をとりあげる (例: 防潮堤と生態系)

SDGs

Monitor

「防災」は課題主流化と連携のチャンス

「防災・減災」実施推進へ

- JCC2015後継組織設立
 - 「災害に強い社会をつくる市民ネットワーク(仮)」
- 防災・減災政策における市民の声の反映
 - 中央防災会議(兵庫行動枠組にもとづくマルチステークホルダーのナショナルプラットフォーム)への働きかけ
 - 「国土強靱化計画」
 - 国の基本計画をもとに、地域(自治体)での計画づく
- 市民目線の論点整理
 - 「レジリアンス」「人為的災害(原発)」など
- 「SDGs」文脈からの課題主流化
 - 例:持続可能でレジリエントなインフラ・都市
(「生態系をいかした防災・減災」「住民自治」など)

実施が重要！

「もしも行動しなかったら、20年後にどうなると思う？」「サミットがまた開催される！」

End of the Rio Summit (Chappatte cartoon)



©2012 Chappatte, distributed by Globe Cartoon. More cartoons on [Chappatte's web site](#). Geneva-based Patrick Chappatte works for the International Herald Tribune, for Geneva newspaper Le Temps, and for NZZ am Sonntag. All cartoons reproduced with permission.

国連生物多様性の10年 市民ネットワーク

ホームページ:

<http://jcnundb.org>

団体facebook: <https://www.facebook.com/JCN.UNDB>

facebookプロジェクト:

「自然と共生する地域づくりを考える」

<https://www.facebook.com/groups/jsn.cbd/>